

令和 7 年度 第 1 回南部町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和 7 年 7 月 30 日（水）
午後 1 時 30 分 開会
午後 4 時 10 分 閉会
- 2 開催場所 南部町役場本庁舎 2 階 大会議室
- 3 出席者
・町長 佐野 和広 ・教育長 市川 隆
・教育委員 渡邊 正志職務代理者 ・教育委員 望月 正宏 ・教育委員 山本 純司
・教育委員 望月 聡美
- 4 事務局等の出席者
・総務課長 遠藤 一明
教育委員会事務局 ・学校教育課長 若林 将基 ・生涯学習課長 遠藤 賢
- 5 協議事項
(1) 令和 7 年度の取組方針について（教育委員会方針・学校教育課・生涯学習課）
(2) 令和 7 年度南部町教育支援センターの事業について
(3) 南部地区小学校の統合について
(4) その他
- 6 議事経過の概要
次のとおり

1 開 会 （渡邊 正志職務代理者）

皆さんこんにちは。連日熱中症警戒アラートが発令され、暑い日が続いています。子供達には暑さに負けないように過ごし、2 学期を迎えて欲しいと思います。今日は令和 7 年度の第 1 回南部町総合教育会議ということで教育委員会方針、また今年度の大きな事業である南部地区小学校の統合についての進捗状況も踏まえ、多くのことを議論できればと思います。それでは、令和 7 年度第 1 回南部町総合教育会議を始めます。

2 町長あいさつ

皆さんこんにちは。今日睦合小の改修工事を見てきましたが、工事は順調に進んでいると思います。隣の学童施設に子供達が 40 名程いたので驚きました。皆挨拶をしてくれて、やはり子供の笑顔は非常に良いなと思いました。今町で進めている子育て住宅建設の件ですが我々が説明した事、そこを使っている方々の意見などこれまでの経過が南部町のホームページに載っています。今回それを見ていただいてパブリックコメントを求めます。これからの南部町を考えた時に、子供達がいれば明るい未来が開けるといいますのでしっかりと諦めることなくやっていきます。色々なご意見を伺いながら、しっかりと対策を練っていきたいと思います。

3 教育長あいさつ

皆さんこんにちは。本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。新教育委員会制度の発足と同時にスタートしたこの総合教育会議ですが、今年で 11 年目となります。

これまでの協議事項を振り返ると教育大綱の策定に始まり、コミュニティースクールの設置、富河・万沢小学校の統合と富沢小学校の開校、ICT教育の導入及びICT教育の推進、中高連携、学校施設の長寿命化計画、生涯学習の充実、文化財の保護と有効活用、教育振興基本計画、新型コロナウイルス感染症対策とコロナ禍の対応、ふるさと教育、教育支援センター事業、教育施設の大規模改修事業、睦合・栄小学校の統合と南部町における教育行政の大綱や重点的に講ずべき重要施策について協議・調整が行われました。その結果、町長と教育委員会の教育政策における方向性が共有され、より効果的で効率的な事業展開が図られたと感じます。これぞまさしく総合教育会議の目指すところであり、町の教育に対する深いご理解があつてのことと感謝申し上げます。教育は町づくりという視点では、時間をかけた未来への投資だと言えます。皆様から忌憚のないご意見をいただくなかで施策が練り上げられ、この投資がより確実なものとなることを願ひまして挨拶とさせていただきます。限られた時間ですが、充実した時間になりますよう宜しくお願い申し上げます。

4 議 事

(1) 令和7年度の取組方針について

【教育委員会方針については市川教育長より説明がありました。各学校の概要については若林教育課長より、今年の生涯学習については遠藤生涯学習課長より説明がありました。】

(市川教育長) ありがとうございます。今年度取り組んでいる教育委員会の内容説明をさせていただきました。令和7年度も3分の1が経過しますが、皆様からご質問・ご意見等ありましたら伺いたいと思います。

(町長) 学校の現在の児童生徒数をしっかりと知らせる必要があります。この様な状態で良いのかと思う。10市町村の南部藩と関わりがありますが、やはり本町は一番小さい。しかし発祥の地であるのでこの状況を何とかして、小さいけれども続けていきたいという思いがあります。その為には、やはり子供がいなければ継続はできません。

(市川教育長) 構成自治体全てで人口減少にどうやって歯止めをかけるかという面で、活力ある町や持続可能な町にしていく為には住宅政策というのは非常に重要です。

(遠藤総務課長) 先日青森の南部町に行き、その時に『子供の数が減少していますが、住宅事情はどうですか?』と聞きました。分譲地を町で買い上げて若い人達向けに提供していかないと定住者が増えていかないという説明を受けました。

(町長) 青森の南部町もこちらと同じように田園地帯ですが、近くの八戸に働きに行く方が多いそうです。そうすると南部町に住宅を建てる方も増えるので、多分そこは人が増えます。私達南部町は発祥の地だと言いながらも、そういった事に対する思いが少ないと思います。南部町は歴史の授業で非常に良いことをやっていますが、もっと多くの人に理解して欲しいと思います。やはり教育については、子供が多いことでもっと効果が出てくるはずです。

(山本委員) 先日議会広報の裏表紙に富士宮から移住してきた女性の話が掲載されていて、子供の声が自分の周りにも聞こえ、すぐに地域に溶け込めたので南部町に住んで非常に良かったと書かれていました。若い人が地域に溶け込むのは大変ですが、同じ様な世代がいると凄く入りやすい。つまり周囲に同じ世代がいる様な住宅地があれば、まだまだ人が増え

る余地はあると思います。今回もし富河中の跡地に住宅ができれば大勢の方が入ってくると思いますし、チャンスにも広報にもなると思います。やはり大事なのは、入りたいという当事者の希望が叶えられるかだと思います。

(町長) 実際富河地区は子供の人数が増えていないので、このままだとこの地区が無くなるという可能性もあると思います。ここで何とか歯止めをかけたいと思っています。

(市川教育長) 中身について議論されていますが、こういった政策的な面でも危機意識を共有しながら、どうすれば良いかを皆さんに考えていただく事も重要になってきていると思います。

(山本委員) 今歴史資料室で小学生や一般の大人でも読みやすい、南部町で育った偉人についての漫画を作るという取組みをしています。こういった漫画やさらに紹介しやすいコンテンツを使って広めていきたいと思います。峡南地区小・中学校の社会科を研究している先生方が、アルカディアで近藤喜則について話をしてくれるということで資料室に依頼が来っています。資料室としては小・中学校で近藤喜則について学ぶ機会を増やしてほしいと思います。やはり南部町にこういった方がいて、どの様な事があったのかという事実を子供達には学んでほしいと思います。

(市川教育長) 確かに義務教育の9ヵ年で、こういった事をふるさと教育として取り上げて学べば良いかを体系化していただいた事は、本当に良かったと思います。

(望月(正)委員) 小1から中3まで、その学年に合った範囲の課題を各学校に提案してあります。学校では社会科の授業や自然であれば理科の授業など、各学年ごと担任の先生が指導していき、南部町を知るという観点からレベルに応じたステップを踏んで学べる形を取っています。先程住宅政策の話にもあったように南部町に人を呼ぶことも大事だと思いますが、南部町に住みつき出ていかないという事が凄く大切だと思います。その為には子供達が南部町を好きになることです。好きになるには知ることが大事で、その為にふるさとカルタを作り、南部町に対する質問と回答44問をクロームブックに載せました。その中に南部町の文化や自然、歴史や産業についてのクイズを入れて、子供達がパソコンで○×回答していくというものを支援センターで作りました。やはり知ることが好きに繋がると思うので、上手に学校で扱ってもらえることを期待しています。

(市川教育長) 子供達のふるさと教育には力を入れていますが、大人についてはどうでしょうか。今度の奥州南部藩の研修にはどのような方が参加されますか。

(遠藤生涯学習課長) 高齢者だけではなく60歳過ぎの方達も来ているので、以前と比べて年齢は分散されたと思います。本来はもっと回数を増やして研修をしなければいけないと思っています。行く方だけではなく、行かない方も含め南部町を知ってもらうという研修を南部学の方で実行できるように努力したいと思います。

(町長) 以前、盛岡の資料館へ行った時に色々な資料を見て、こういった方達が日本を動かしたのだと思い感動しました。南部町でなければ南部学の教育もできないと思うので、大人教育の方も宜しくをお願いします。

(望月(正)委員) 教育委員会方針の重点施策で生涯学習・生涯スポーツの中に『歴史資料室の人材確保と調査活動を支援する』とあるが、継続していかなければならないので若い世代の方が入ってくれば続くのかなと思いました。広報に毎月記事が出ていますが、こういうものを作る為にはもう少し人数がいた方が良いでしょう。

(山本委員) 人材については皆で話し合いをする事になると思いますが、そういう方がいれば教育委員会と相談をしながら検討していきたいと思います。特別重点施策である部活動の地域移行については単独では難しいので、どう協議や連携をしていくかという事だと思います。教育事務所単位で関連する人達が地域で連携を取りやすい様にコーディネートをする、また県の方で人材派遣をしてもらうなどが良いと思います。それぞれの町で皆大変な思いをしているので、地域移行を進める為には県の方でも人材を出してほしいという意見を南部町、または峡南 5 町で県にお願いするという形をとっても良いのではないかと思います。

(渡邊正志委員) 先日、山日新聞で小・中学校の部活動を年度内に地域スポーツクラブなどに地域移行、地域展開するという記事がありましたが、実際に南部町はどこまで進んでいるのですか。

(若林教育課長) 南部町も協議会を立ち上げて、どういった形がこの町に合っているのかを検討していきます。協議会の立ち上げはその取り組みが一步前進したということで、実際今年度内に全ての地域クラブに移行し活動するということではありません。県の方から進捗調査が来ていて、南部町は年度内に協議会を立ち上げるという回答をしています。9月の補正で立ち上げに関わる経費が必要であれば、計上したいと思います。いずれも、南部町に合うような形で立ち上げを検討していきたいと思います。中学校とは部活動について4月に会議をしています。南部町だけでは本来の目的を達成できないのではないかという話をしました。今後学校と教育委員会以外のスポーツ推進委員や指導者の方に入っただき、色々な事を検討していきます。野球は峡南 BBC の南部支部・身延支部のような形でできるのではという話も出ていますが、まずはできる所から 1 つでも地域移行していこうと考えています。

(町長) 県の方は状況が分からないので理想論を言いますが、南部町で同じ事ができるかという点と難しいと思います。違う方式でいくのかなど検討する必要があるかもしれません。

(市川教育長) 部活動の地域展開についてはまだ一步踏み出せない状況ではありますが、拙速は避けてより望ましい形を、常に情報を教育委員と共有しながら体系格差を生まないように頑張っていきたいと思います。

(2) 令和 7 年度南部町教育支援センターの事業について

【若林教育課長より令和 7 年度の南部町教育支援センター事業について説明がありました。】

(市川教育長) 多岐にわたる見込みということで平成 26 年度にスタートし、内容の充実という形で様々な取り組みがされている事に非常にありがたさを感じます。町長、これについていかがでしょうか。

(町長) 良いと思います。子供達の教育に関しては、予算が足りないようであればしっかりと補っていききたいと思います。

(若林教育課長) チャレンジ教室については現在 1 名の生徒がいます。先生方も就職という事を考えながら、本人やご家族とお話しをしています。

(望月(正)委員) 担当の先生も本人にそういった話をしますが、実際そういう場面になると本人が精神的に受け付けないこともあり非常に難しいです。親としてはお金を稼いで自分で生きていけるようになって欲しいのですが、なかなか上手くいかないと思います。

(山本委員) その生徒はパソコンに興味があるそうなので専門学校などに行き、自分の技能に結びつけば良いなと思ったのですが、学校に行くことが全てではないので本人に何か好きな事や興味・関心があれば良いなと思いました。

(市川教育長) 教育と福祉という所の繋がりを必要な方はいらっしゃいますので、小さい町ならではのきめ細やかな対応、今中学校でも社会との繋がりができていない子もいるそうなので、そういった子供達をどうすればよいのかしっかりと考えていきたいと思います。望月(聡)委員にお伺いしたいのですが、支援センターの取り組みなど保護者達と情報共有やお話したりすることはありますか。

(望月(聡)委員) 今回未来塾は中学生が11人いますが、お母さん達は凄くありがたいと言っています。塾に通うにもお金がかかりますし、未来塾で友達と一緒に勉強するので頑張れるという子もいると思います。無料で月に2回指導してくれるのは本当にありがたいと保護者の方も言っていました。

(市川教育長) ありがとうございます。教育支援センター事業についてはこの辺でよろしいでしょうか。より充実させていく為に、引き続き皆さんのご意見をいただきながら進めていきたいと思います。

(3) 南部地区小学校の統合について

【若林教育課長より南部地区小学校の統合について・校舎改修工事について・通学支援についての説明がありました。】

(市川教育長) ありがとうございます。非常に丁寧に取り組んでいるというところで、対象となる方々以外の町民の方にも情報提供をいただいているので順調に事業が進んでいると思います。前半の3つの項目については進捗状況の報告がありました。通学支援については前回の定例教育委員会でご意見を伺いました。8月5日の保護者説明会では、この案で説明をさせていただきます。こういった状況で皆さんから何かご意見がありましたら伺いたいと思います。

(望月(正)委員) 一点気になるのは、分庁舎の裏の方から来て踏切を渡る子供がいますが、その通学時間帯に電車の通行はないのですか。

(若林教育課長) 今の時刻表だと富士行きの特急と身延行きの普通電車があります。特急の方は警笛が鳴ってから1分程で中田下の踏切の所まで来るので注意が必要かと思います。身延行きは駅へ停まりますが、その間も遮断機が下りたままなので少し安心かと思います。今までそこを通らないようにガード下を通してあるので、開始当初はスクールガードリーダーやボランティアの方を派遣することも考えた方が良くと思います。

(山本委員) 無人踏切で遮断機が下りない所は通れてしまうので、そこはルールとして通らないようにしっかりと注意していく必要があると思います。あと時間設定が少しタイトに感じますが、大丈夫でしょうか。

(若林教育課長) また実際に運行して様子を見ますが、一応学校の方からは了承をいただいています。先生も朝早く学校へ来たりしますが、児童があまり早く学校へ来ってしまうと先生方も困ると思うので、理解を求めながら調整していきたいと思います。

(渡邊正志委員) スクールバスで南部・中野・本郷便とありますが、南部の商店街では何処が停留所になりますか。

(若林教育課長) 商店街は通勤の時間帯だと車が多いので、あまり多くの場所には停まれないと思います。対象者が10名いますが一か所に集合する形で、その場所までは徒歩で来てもらうようになるかと思います。一か所で広く安全な場所を選定したいと思います。

(望月(聡)委員) 私も南部商店街の停留所が何処になるのかが気になります。朝の時間帯はスピードを出して走る車もいるので、子供達には集合している時にふざけたりしないように学校や親御さんから注意をする必要があると感じました。あと他の車からスクールバス停留所だと分かるように、バス停を建てた方が安全ではないかと思いました。

(若林教育課長) 中学校が統合した時、一般の方にも注意を促す為に全箇所にバス停を建てました。今回も車両に対する注意喚起がバス停で良いのかなど検討しながら対処していきたいと思います。

(4) その他

(市川教育長) その他ですが、皆さんの方から何かありますでしょうか。

(山本委員) 夏休み中なので、スマホや情報端末に対する子供の関わり方が心配です。登校日等で学校側からもそういう懸念を子供達に伝えて欲しいと思います。

(町長) 子供達が夏休み中に何処かに出掛けたことを学校で話すそうですが、行けない子供もいるのでそういった話を学校で話すことに配慮が必要ではないかと思います。学校現場でも先生方にその辺はフォローしていただき、そういった場面で職員がどのような言葉かけをしていくのかなども少し気にしておく必要があると思います。

(望月(聡)委員) 以前、夏休み明けに子供達の絵日記が廊下に貼られているのを授業参観の時に見ました。確かにそれを見て、何処にも行っていない子供はどう思うのかなと感じました。

(山本委員) 子供達に夏休みの思い出を喋るなという訳にもいかないと思います。これからその様な場面もあると思うので、職員がその場でどういった言葉かけをしてあげられるか、そういった事にも配慮したり気に掛けるという視点が必要だと思います。

(望月(正)委員) 子供が家で誰が何処に出掛けたなどの話をした時に、親御さんがどのような様に対応するのか、難しいですが家庭での配慮も少し必要かなと思いました。仕事の都合や家庭環境などの理由で子供と出掛けられない親にとっては、子供に寂しい思いをさせたくないだろうし切実な問題だと思います。

(市川教育長) 実際に学校ではどのような状況なのか、また聞いてみたいと思います。他に自由なご意見何かありますでしょうか。無いようでしたら、以上で議事を終了します。

5 閉会

(望月(正)委員) 長時間にわたって協議していただき、ありがとうございました。本日は3つの議題が提示されましたが、教育委員会として、今年度の最重要課題は南部地区小学校統合に向けての具体的推進であると感じました。今年一年かけて有人の校舎改修や外構工事、さらに子供達の安全確保を考えた通学支援など、本当に丹念に計画されていて教育委員会事務局の皆さんには本当に感謝を申し上げます。来年度いよいよ南部小学校が開校し

ますが、そこで学ぶ子供達の生き生きとした姿を想像しています。以上をもちまして、令和7年度第1回南部町総合教育会議を終了します。ありがとうございました。

以上